

## 道徳学習指導案

平成17年11月24日 5校時  
仙台市立立町小学校 4年1組  
指導者 教諭 石川 裕美

### 1 主題名 相手のことを考えて

### 2 主題設定の理由

#### (1) 価値について

中学年の子供たちの行動特性や思考能力の発達に合わせて、重点化されている内容項目である。

自己の確立にとって、自分を客観的に見つめ、内省することは大切なことである。これは認識能力が向上する中学年ごろから本格化し、徐々に生活全体の中に反映され、主体性のある自己が形成されていく。この期の子供たちは非常に活発になり、活動的ではあるが、まだ十分に相手のことを考えて行動することは難しい。また、思考力の発達に伴い、様々なものに興味をもち、集団での遊びや様々な学習に興味を示すが、そこでもやはり自分のわがままや興味・関心が優先してしまう。この時期によく考えることの重要性とさらに自分が過ちを犯していたと気づけば素直に改められる態度を身につけるようにすることが大切である。

あらかじめ自分の行動がどういう結果をもたらすのかについて十分に予測しながら行動することは困難な時期である。したがって、よく考えて行動することの大切さを指導すると同時に悪いことをしたと気づけば、その時点で素直に謝ることのできる態度を育成することが求められる。

#### (2) 研究との関連

情報教育において相手を思いやる心をはぐくんでいくためには、道徳教育との関連を図り、体験を通してネットワーク上の約束や相手を意識させ、指導していくことが大切である。

まず、総合的な学習の時間において、コンピュータの簡単な操作に親しむことや、相手の立場を考えた表現で情報を発信することを目標に電子メールの学習をさせる。情報コミュニケーションの学習の導入でもあるので、今回は、スタディノートを使って、楽しく自分の思いを表現させながら、電子メールを友達に送ったり送られてきたりする体験をさせたい。その中で、電子メールにかかわる約束に触れさせ、長所や短所にも気付かせていく。

次に、総合的な学習の時間における電子メールの体験を取り入れた、情報モラルにかかわる道徳の授業を考えた。しかし、小学校の道徳の副読本に情報モラルを扱った資料がないため、自作することにした。資料は、子供たちが興味を持ち始めている電子メールに関する内容で、興味、関心やわがままが優先してしまいがちな中学年の特性から考えて、自分と重ね合わせることができるものになっている。子供たちは、導入で総合的な学習の時間における体験を振り返ったり、提示された資料の中の、“先生が電子メールの勉強のときに黒板に書いた約束”を読んだりすることで、情報モラルを意識しながら授業に参加するであろう。また、道徳の時間のねらいである「友達へ

の思いやりの気持ちが足りなかったことを反省し、素直に謝ろうとする気持ちをもつ」ことから、本研究主題である「相手を思いやる心をはぐくむ」ことができると考える。

### (3) 児童の実態について

明るく仲のよいクラスである。男女の区別なく、協力し合ってグループ活動や係活動などに取り組む様子が見られる。しかし、ちょっとした意見の食い違いからけんかになり、相手を傷つけるような発言をしたり、相手の気持ちを考えずに自分の思いだけを主張したりする様子も見られる。相手に責任を転嫁し、まちがいを素直に認められない子供もいる。その場その場では素直に自分を振り返り謝ることができても、なかなか定着を図るのが難しい現状である。

#### 情報コミュニケーションに関する実態

アンケート結果からは、家庭で電子メール等のネットワークに触れる体験があまり多くないことが分かる。電子メールを使いたいと思わない理由にも“大変そうだから”といった経験の少なさからの不安感が読み取れた。ネットワークを利用することの楽しさや便利さも体験させながらネットワーク上の相手や約束を意識させていくことが大切である。一方、「電子メールを使うときどんなことに注意したらいいと思いますか」という問いに対しては、“相手のことを考える”“相手に伝えたいことをはっきり打つ”という記述が見られた。総合的な学習において電子メールの約束を確認する際、子供たちに再度考えさせながら提示していきたい。また、電子メールの特徴をまだよく理解していない子供も多いので、手紙と比較しながらつかませていくことも大切である。

そこで、子供たちが興味をもちはじめている電子メールを通して情報モラルについて考えさせながら、よく考えて行動し、過ちを素直に認めることは大切なことだと考え、本主題を設定した。

### (4) 資料について

本時の資料は、電子メールを通して情報モラルについて考えさせながらねらいとする道徳的価値に迫っていくための自作資料である。

資料の内容は次の通りである。

順と健太は大の仲良しである。ある日、メール交換をしようと約束した健太は、初めてメールが届いたうれしさを体験する。二人は夏休み中も遊ぶ約束やサッカーに行く約束をメールですることを決める。話の展開は、この時期の子供にありがちな、深く考えずに約束をしてしまうことに端を発している。

夏休み中のある日、健太は学校の裏の森にクワガタがいることを知り、メールで順を誘う。ところが、いつまでたっても順からの返事がこないことに腹を立て、いらした気持ちをメールにぶつけて送信してしまう。しかし、次の日の夕方、順から届いたメールを読んで健太ははっとする。自分の身勝手な行動や、メールを受け取った順の気持ちに気付き、さらには先生がメールの勉強のときに黒板に書いた約束を思い出したのである。健太は、自分のしてしまったことを振り返り、順におわびのメールを打つという話である。

資料から、子供たちは物事が自分の思い通りにいかなかったときの気持ちやまちがったことをしたことに気付いたときの気持ちを共感的にとらえるであろう。そこで、よく考えて行動し、過ちを素直に認めることは大切なことだということを実感させた

い。

#### (5) 指導の方向

総合的な学習の時間において、電子メールの学習をさせ、電子メールを友達に送ったり送られてきたりする体験をさせておく。その中で、電子メールの長所や短所にも触れさせるようにしたい。

本時導入では、総合的な学習の時間に勉強した電子メールを打つときの注意やきまりを想起させ、価値への方向付けを図る。

展開前段では、メールのやり取りの様子がつかみやすいようにパワーポイントで資料を提示する。画面にはメールの文章と二人の登場人物の様子だけを映し出し、場面の状況がとらえやすいよう配慮する。

話し合いでは、まず、健太がどんな気持ちで「クワガタを探しに行こう」という誘いのメールを順君に送ったかを考えさせ、約束する前から明日のクワガタ捕りを楽しみにしている健太の気持ちに気付かせたい。次に、いらいらした気持ちを順君への電子メールにぶつけて送信してしまったときの健太の気持ちを考えさせる。順君の返事への期待感や一緒にクワガタを探しに行きたいという思いから、相手の立場や事情も考えずに一方的にメールを送って返事がこないことに腹を立てる健太の気持ちを共感的にとらえさせたい。中心発問では、身勝手な自分の行動を後悔する健太の気持ちをとらえさせる。その際、メールを受け取った順君の気持ちに気付かせることで、メールにおける情報モラルについて考えさせる。

そして、まちがったことをした自分を振り返り、素直に謝ろうとする気持ちに気付かせたい。さらに、健太が順君にどのようにメールを打ったかを考えさせることで、価値の内面的な自覚を深めさせていく。

展開後段では、まちがったことをして、素直に謝った経験を話し合わせる。きまりの大切さや人の気持ちにも気付かせながら、まちがったことをしたら素直に謝ろうとする気持ちをもたせていきたい。

終末では、校長先生から相手の気持ちを考え、素直に謝ったときの経験を話していただく。校長先生から話していただくことで、まず、失敗はだれにでもあることだということを実感させたい。さらに素直に謝ることのすがすがしさに気付かせ、価値への実践意欲を高めさせたい。

### 3 ねらい

#### 道徳の時間のねらい

- ・ メールを送ったり受け取ったりしたときの健太の気持ちに共感する。
- ・ 健太の気持ちに共感し、友達への思いやりの気持ちが足りなかったことを反省し素直に謝ろうという気持ちをもつ。
- ・ 自分の言動を振り返り価値の内面的な自覚を深める。

#### 《情報教育のねらい》

- ・ 相手の気持ちを考えた表現で情報を発信することの大切さが分かる。

### 4 資料 自作資料「順君のメール」 (別紙)

## 5 指導過程

段階	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点と教師の支援
導入	<p>1 学校で電子メールのやり取りをしたときの経験について話し合う。</p> <p>どんなことに気をつけながらメールを打ちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ていねいな言葉を使った</li> <li>・ 見やすいように行をかえて打った</li> <li>・ 相手の名前と自分の名前を入れた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な学習の時間に電子メールの学習をしたことを想起させ、資料へとつなげていく。</li> </ul>
展開 前段	<p>2 「順君のメール」を聞いて話し合う。</p> <p>「クワガタを探しに行こう」という誘いのメールを送ったとき、健太はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順君喜ぶぞ</li> <li>・ 今度こそクワガタを見つけるぞ</li> <li>・ 明日が楽しみだな</li> </ul> <p>返事をくれない順君にメールを送ったとき、健太はどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 返事をくれないなんてひどい</li> <li>・ 約束はメールでしようって言ったくせに</li> <li>・ もうメールなんてしないぞ</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>順君のメールを見て健太はどんな気持ちになったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なんて自分勝手だったんだろう</li> <li>・ メール約束を教わっていたのに</li> <li>・ 順君の気持ちを考えていなかった</li> </ul> <p>健太はどんなことをメールに打ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールやり取りの様子がかみやすいようにパワーポイントで資料を提示する。</li> <li>・ 主人公の健太の気持ちを考えながら聞くようにさせる。</li> <li>・ はじめて順君とメールがつながったときの気持ちとどんな目的でメールを使おうとしているのかをおさえておく。</li> <li>・ 約束する前から明日のクワガタ捕りを楽しみにしている健太の気持ちに気付かせたい。</li> <li>・ 順君の返事への期待感や一緒にクワガタを探しに行きたいという思いから、一方的にメールを送って返事がこないことに腹を立てる健太の気持ちに十分に共感させる。</li> <li>・ 身勝手な自分の行動を後悔する健太の気持ちをとらえさせる。</li> <li>・ メールを受け取った順君の気持ちに気付かせることで、メールにおける情報モラルを考えさせたい。</li> <li>・ まちがったことをした自分を振り返り、素直に謝ろうとする気持ちに気付かせる。</li> </ul>

後段	3 自分の生活を振り返る。 まちがったことをして、素直に謝ったことはありますか。	・ きまりの大切さや人の気持ちにも気付かせながらまちがったことをしたら素直に謝ろうとする気持ちをもたせていきたい。
終末	4 校長先生から相手の気持ちに気づき、素直に謝ったときの経験を聞く。	・ 校長先生から相手の気持ちを考え素直に謝ったときのことを話していただくことで、失敗はだれにでもあることだということを実感させたい。その上で素直に謝ることのすがすがしさに気付かせ、価値への実践意欲を高めさせたい。

## 7 評価

### 道徳の時間のねらいに関して

- ・ メールを送ったり受け取ったりしたときの健太の気持ちに共感できたか。
- ・ 健太の気持ちに共感し、友達への思いやりの気持ちが足りなかったことを反省し素直に謝ろうという気持ちをもてたか。
- ・ 自分の言動を振り返り価値の内面的な自覚を深めることができたか。

### 《情報教育のねらいに関して》

- ・ 相手の気持ちを考えた表現で情報を発信することの大切さが分かったか。

## 8 資料分析

資料名 「順君のメール」

ねらい

